

田原本御佛三十三ヶ所巡礼(やすらぎと歴史遺産を訪ねて)

第十八番 八条 極楽寺

阿弥陀如来立像 鎌倉時代 中期 像高96.4cm

八条 極楽寺は近在六ヶ大字の郷墓を管理する墓寺である。

本尊 阿弥陀如来立像には 観音・勢至両菩薩（江戸時代前期）を配した釈迦三尊形式で、本尊像は檜材の寄木造、玉眼を嵌め、肉身部は金泥、衣部は黒漆かけ・頭部は切子形螺髪を掘出し、耳後ろで前後二材剥ぎ内割り、体部も前後二材剥ぎ内割りが。この像の両手は縷網相（水掻状の膜）で外に向け各一・二指を捻る印相で、弥陀の来迎形で右足をわずかに緩め、左足をやや踏み出す姿である。衣文の細やかで明快、彫り口も鋭く、肉付けも抑揚があり均整と力感のある優れた鎌倉中期の阿弥陀如来立像である。



阿弥陀如来立像

写真 藤見日出登



阿弥陀如来立像

「田原本の仏像」より